

8月の行事等予定表

1月	燃えない粗大ゴミ
2火	
3水	盆踊り太鼓の練習
4木	
5金	
6土	
7日	
8月	
9火	
10水	盆踊り太鼓の練習
11木	山の日
12金	ヘアーカット（13時～18時）
13土	ヘアーカット（8時～17時） 平郡東地区盆踊り
14日	平郡東地区盆踊り
15月	
16火	
17水	新型コロナワクチン接種日 盆踊り太鼓の練習
18木	
19金	
20土	燃える粗大ゴミ
21日	
22月	
23火	
24水	盂蘭盆精霊踊り
25木	みしまだより発行
26金	
27土	
28日	
29月	
30火	
31水	

熱中症に注意しましょう！

平郡東地区盆踊り開催のお知らせ

日時 8月13日（土）20：00～21：00
14日（日）20：00～21：30

※状況により変更する場合があります

場所 浦中手沖埋立地



盂蘭盆の精霊踊りは

8月24日（水）

19：30～20：30

小学校校庭で開催

いたします。

お問い合わせ 平郡東民芸保存会 ☎47-2211

敬老会中止のお知らせ

令和4年度平郡東地区敬老会は中止となりました。なお、75歳以上の敬老対象の方には、平郡東地区社会福祉協議会を通じて9月中旬に祝品をお贈りする予定です。また、米寿・100歳を迎える方には、敬老記念品などをお贈りします。



お問い合わせ 平郡出張所 ☎47-2211

ヘアーカットのお知らせ

日時 8月12日（金）13：00～18：00
13日（土）8：00～17：00

場所 老人憩いの家



※10月が今年最後のカットになります。

みしまだより

令和4年7月28日号
発行 平郡東公民館
☎0820-47-2211
平郡総人口 247人
平郡東人口 157人
令和4年6月末日現在

ぶるぼん隊員の活動報告

平郡東の皆様、暑い中どうお過ごしでしょうか？

本当に暑いので、ご無理のないようになさってください🌻🌻🌻

さて、6月、7月上旬と平郡ではあんまり雨が降りませんでした。

平郡東島おこし推進協議会では、さつま芋栽培を行っておりまして、私ぶるぼんも柳井市の地域おこし協力隊としてそのお手伝いをさせてもらってます。

雨が降らなくて、皆さんと共に植えた苗に水やりを1本1本にしないとイケなかつたり中々大変な年だった気がします🌻

僕は学生時代から、学校の登下校の時に雨はぶち鬱陶しいので、大っ嫌いじゃったのですが、平郡へ来て、芋のお手伝いをするようになってからは「雨雨、降れ降れ～！」と心の中では八代亜紀さんのような事を思っています。

まあ、そんな雨も降らない暑い中、たくさんの方が、島おこしのさつま芋の苗植えや草取りをお手伝いに来て下さいました🌻🌻🌻

めちゃくちゃ作業が進みましたし、本当に助かりました!!

皆さんが来てくれてなかつたら、ハッキリ言ってまだ

色んな作業が終わっていませんでした🌻🌻

ありがとうございました🌻🌻🌻

無事に収穫出来るよう、

柵の点検をしながら、豊作を祈ります🌻🌻🌻🌻🌻



6月15日撮影 皆さんと苗植え

新型コロナワクチン4回目接種について



接種日 8月17日（水）



当日持参物：①接種券付き予診票（うす緑色の紙）と②健康保険証

※接種券を紛失されました方は、必ず8月8日（月）までに
平郡出張所（☎47-2211）にお問い合わせください。

時 間	対象自治会	接種会場
8：30～9：00	波止・江の尻	平郡診療所
9：00～9：30	上久保	
9：30～10：00	下久保	
10：00～10：30	石原・佐保	
10：30～11：00	中手・浦中手	
13：00～13：30	河内	平郡漁協
13：30～14：00	中浜	
14：00～14：30	大江	
14：30～15：00	石仏	
15：00～15：30	縄手	
15：30～16：00	内浜	
16：00～16：30	阿宗	

※肩を出しやすい服装でお越しください。

お問い合わせ 平郡出張所 ☎47-2211

やない暮らし応援買物券について

利用期間 7月19日（火）～10月31日（月）

【対象者】令和4年7月1日（金）時点で柳井市に住民登録がある人

【販売額】1人につき18,000円分（販売価格10,000円）

○販売期間 7月19日（火）～8月31日（水）の平日

○販売場所 平郡郵便局（市内郵便局）



詳しくは「広報やない6月9日号」8ページをご覧ください。

お問い合わせ 柳井市商工観光課 ☎22-2111

平郡島のホームページについて

7月1日、平郡島のホームページ“ようこそ平郡島へ”が公開されました。

ホームページURLは <https://heigun.jp/> です。



お問い合わせ 平郡東島おこし推進協議会 ☎47-2211

第2回老人大学講座開催

6月22日（水）に第2回老人大学講座が開催されました。

講師は柳井地区広域消費生活センターの泉沙織さん^{いずみさおり}で、演題は「高齢者嘘電話サギ等」でした。

参加された皆さんも高齢者が多く、熱心に話を聞かれていました。

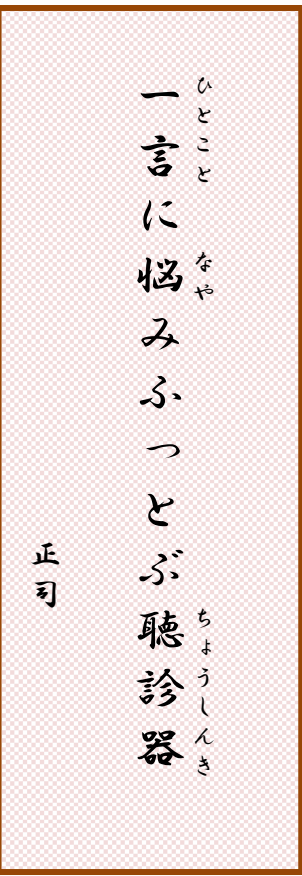


受講生23名、一般参加6名、合計29名の出席でした。

お問い合わせ 平郡東公民館 ☎47-2211

今月の川柳

読売山口文芸欄入選



太鼓は櫓長太鼓 1 尺 6 寸（48 c m）。胸の高さに設置され、半身に構えて叩く。撥は太鼓を傷つけないよう杉の木で作られている。
全ての口説きに共通して 3 回強く叩く箇所があり、これを“打ち切り”という。叩き手が代わる時は先の叩き手が打ち切り、後から入る叩き手と代わる。口説きが途中で狂ったり止まってしまっても、太鼓は止めることなく同じ旋律で叩き続ける。

盆踊りは、始まる前に人々に参加を呼びかける“呼び太鼓”が“さんさ”の旋律で叩かれ、開始時間になると“さんさ”から始まる。
別の口説きに変わる時（例として、“さんさ”から“さんざ”に変わる時）は「さらばとうだい 静まりたまえ」と入る。また、“さんざ”から“さんさ”に変わる時は「落としたいの」と入り、太鼓と息を合わせる。
口説きを間違えてしまいそうになった場合、「どっこいこりや迷うた」と口説き、立て直すことができる。（例：島のはじめは 淡路が島よ→島のはじめはどっこいこりや迷うた）
“鈴木主水”、“きやま”等が口説かれ、盆踊り終盤になると“さんさ”になり、いよいよ終わりが近づくと「今やめますぞ」が数回口説かれる。最後は「この声かぎり」と口説かれ、締めとなる。締めの口説きが終わると、太鼓がドンドンドンドン・・・と連続で叩かれ、盆踊りが終了する。



写真：令和元年 8 月 1 3 日撮影

つづく・・・

盆踊りについて

盆踊りは 1 3、1 4、1 5 日と毎晩続け、1 5 日は夜あかし（徹夜）と称して踊り引き続き昼踊を一日中踊る 1 7 日の観音踊 1 8 日八幡踊大師踊の 2 0 日、2 4 日うら盆踊等なかなか忙しいほどである。各部落によって異なる日があることを記しておく。

（平郡島史より 境吉之丞著 昭和 5 3 年 9 月 1 5 日発行）

柳井地方の「盆踊り口説き」を述べる前に、一応「盆踊り」について大略の説明をしなければならない。
盆踊りは盂蘭盆の 7 月 1 3 日から 1 6 日にかけて、迎える精霊の慰霊と魂送りを兼ね、音頭または歌謡に合わせてする踊りである。その起こりは、上代の歌垣の遺風を継承するものとか、インドの釈迦の高弟目犍連が、餓鬼道に落ちて苦しむ母を救ったという「盂蘭盆経」の記事に基づくもの、日本では推古天皇十四年に初めて公の行事となった盂蘭盆会の遺風を伝えたものだとする説があるが、簡単には決め難い。

（柳井市史より 昭和 6 3 年 1 1 月 3 日発行）

精霊を慰め、これを再び魂の故郷へ送り出すための踊りであるが、農山漁村では主として若者の娯楽として、また秋の豊作の祈りも込められていた。
盆踊りの期間は各地区で多少異なる。平郡東では青年団主宰で、1 3 日から 1 7 日までと 1 9 日、2 4 日の両日、羽仁では海蔵院、浦は浄光寺の境内で踊っていた。中でも 1 6 日は夜明けまで踊るものとされ、多くは仮装して参加した。1 7 日は観音の踊り、1 9 日は大師の踊り、2 4 日は盂蘭盆の踊りといい、いろは口説・三太口説・お吉清太・鈴木主水・市松仇討・山本佐兵衛・きやま彦之丞など七七五調を基調とする長い口説きに合わせた。帰省者の都合を中心とする現在では、1 4 日と 1 5 日を盆踊りの日としている。

（新平郡島史より 平成 7 年 3 月 3 1 日発行）

昭和50年頃まで、平郡東地区の盆踊りは浦地区は浄光寺で、羽仁地区は海蔵院で行われていました。当時櫓はなく、太鼓の周りを2重3重の輪になって踊っていました。お相撲さんや派手な着物姿、ひょっとこの面を被って男装する等、仮装して踊りに参加する人が多くいました。口説く人や太鼓を叩く人も大勢いて、夜通し行われていました。中には徹夜で踊り、早朝寝ずに出漁する漁師もいたそうです。

平郡の盆踊りは“精霊踊り”^{しょうれいおど}といわれ、ご先祖様の霊を慰めるために行われています。初盆に踊ることは故人を供養する上で大切な行事とされています。近年は平郡東民芸保存会主催で8月13、14日に浦中手沖の埋立地で1～2時間行われています。また、8月24日の盂蘭盆の精霊踊りは、無縁仏の霊を慰めるために行われているといわれています。

盆踊りは、歌・太鼓・踊りで構成されています。踊りは、男踊り・女踊り・しあんばし・きやまの4種類。櫓の周りを右回りに輪になって踊ります。盆踊りの歌は“盆口説き”^{ぼんくど}といわれています。口説きの種類は、さんさ・さんざ・お初吉之丞・鈴木主水・きやま・いろはくどき。この内、さんざ・お初吉之丞・鈴木主水は七七調の同じ旋律で口説かれます。口説きは他に、市工門・お吉清太・市松の仇討・お鶴松次等があったようですが、最近は口説かれていません。口説きは数人が交代で歌い、途中の“付け声”^{つけこえ}は周囲で踊る人が掛けます。



写真：令和元年8月13日撮影

【さんさ】（ ）内は付け声
えーへいなー ああーあーあー ご苦労さんどうなーあー
さーあーよーいさあーい（サーヨーイ ヨーオイヨーイヤナ）
いやご苦労さんどー若い衆（ヨーイヨイ）
よいとそーりゃ 歌おやの※
①お手を振りやれさー（お手をふらねば しーよがござらぬはりゃれー）
②長い浜じゃいなー（長い浜にはもばが寄る はりゃれー）
③お月を見やれさー（お月は山のはに わしゃここにはりゃれー）
④五葉の松じゃいなー（末は鶴亀 五葉の松はりゃれー）
※「歌おやの」の次に①～④が順序関係なく口説かれる。

【さんざ】（ ）内は付け声
島のはじめは 淡路が島よ（ヨーイヨイ）
国のはじめは 大和の国よ（アラ ヨイヤセー ヨーヤートセー）

【お初吉之丞】^{はつきちのしょう}（ ）内は付け声
今度大阪 道頓堀の（ヨーイヨイ）
まわり角なる はりやの六兵衛（アラ ヨイヤセー ヨーヤートセー）

【鈴木主水】^{すずきもんど}（ ）内は付け声
花のお江戸の そのかたわらに（ヨーイヨイ）
さてもめずらし 心中の話（アラ ヨイヤセー ヨーヤートセー）

【きやま】（ ）内は付け声
きやま彦之丞は なして色が黒いか（サートサイ）
笠が浅いのか よこ陽がさすか（アラ エンエンエー ヨーヤートセー）

【いろはくどき】（ ）内は付け声
今度日向の ほけらく寺の（サートサイ）
ほけつ和尚が つくらせ給う（アラ エンエンエー ヨーヤートセー）

（平郡東民芸保存会 盆口説き集より）
※“さんさ”以外の口説きにはそれぞれ続きがあります。